



経営デザインシート

企業名	萩原工業株式会社 株式会社グローバルエナジー	作成年月日	2021.5.25
-----	---------------------------	-------	-----------

将来構想のキャッチフレーズ

地球にやさしいクリーンなエネルギーを。

これまで どうだった？

資源	ビジネスモデル	提供価値（誰に・何を）
内部資源：2021年内、時点で20メガワットの自社太陽光発電所 稼働実績 外部資源：2012年からの太陽光発電所施工実績・国内300メガワット施工	内部：自社発電所での20年間の安定した売電事業、自社施工で収益率確保。 外部：自社での土地取得、各省庁への申請業務、設備設計、施工、全ての作業をワンストップソリューションで行えるため、お客さまへの低価格での提供が行える。	国内各地での再生可能エネルギー発電事業で生まれたクリーンエネルギーを各地域の電力会社に売電する事により地域社会に提供する。

課題

- ・太陽光発電所の設置場所が少なくなってきた
- ・FIT（売電単価）の低下により、事業性がなくなり、新規太陽光申請が減ってきている。
- ・山林などに設置する場合に、伐採による自然破壊になるとの見方もある。（伐採後の木材はチップなどにしてバイオマス発電の燃料に使用している）

2030年には こうしたい！

資源	ビジネスモデル	提供価値（どんな相手に・何を）
・太陽光発電の設計、施工、調達野のノウハウ、技術での他社との優位性 ・遊休農地、一般住宅屋根、牧場などへの太陽光発電の設置 ・国策としての自然エネルギーの活性化、導入目標 ・太陽光発電所等の管理メンテナンス業	内部資源：保有太陽光権利、新規申請予定の自社発電所建設、20年間の安定した売電事業 外部資源：国策として、今後、自然エネルギーが増えて行くので太陽光発電含め、それ以外の自然エネルギー発電設備建設	・地域社会に対するクリーンエネルギーの提供 ・地域の社会・産業活動の活性化への寄与 ・地域コミュニティに対する雇用創出 ・日本国内の遊休地や荒地の活用、管理

外部環境

- ・国策による再生可能エネルギーの浸透性、FIT(売電単価)の低下
- ・国の目標として2030年までには自然エネルギー(太陽光、水力、風力、バイオマス、地熱等)だけで全体電力の30%を目標としている。
- ・現状、日本は太陽光発電率は全体の約8.5%程度だが欧州では約20%なので他国と比べても遅れを取っている。

2030年に向けていまからどうするか

- ・太陽光発電所を設置できる土地が少なくなっている為、遊休農地、牧場等の活用(農地転用の規則緩和)や、一般住宅屋根、工場屋根等への設置に対する国の優遇、補助金拡大
 ・自然エネルギー全体のFIT(売電単価)低下により、事業収支として法人、一般の方のメリット増になるように検討していく
- ・発電設備の各資材、施工費、管理メンテナンス費等を下げられるように企業努力をしていく
- ・太陽光発電は成熟しているので、その他の再生可能エネルギーに焦点を当てていく
- ・近年の異常気象の中で災害の出ないような、設計、建設技術の向上